

灯

(あかり)

『汗を流して、未来を拓く』

令和6年3月8日(金) 第33号

文責：校長 森下 隆司

『玉之浦小中学校が目指す児童生徒の育成に向かう研究』

玉之浦小中学校は、五島市教育委員会の指定を受けて、今年度から令和7年度までの3年の期間で「小中連携」をテーマにした研究を進めています。初年度の今年度は、11名の教員が研究授業を行い、文部科学省が「これからの時代に求められる人間」を育成するために必要な力である「思考力・判断力・表現力の育成」について検証してきました。研究の概要を簡単に示すと、子供達が「何を知っているか、何をできるか」という力を生かして、「知っていること、できることをどう使うか」という力をいかに身に付けさせていくかということです。



同時進行で、児童生徒の学力保障として小学校、中学校それぞれで「学力向上プラン」を作成し、1年間取り組んできました。4月に実施した2つの学力調査や年間2回、本校が独自に行っている学力調査について結果を分析し、1年間の指導・支援を通して、子供達がどれくらい成長したかということも検証しています。

小中学校すべての学年において、4月の結果から改善が見られます。ただし、各学年の課題も明確になっています。例えば、「問題に粘り強く取り組む態度」や「毎日勉強する習慣」は、今後もご家庭に協力、あるいは支援をしていくことで改善につながることを期待できます。また、学習が習慣化すれば、子供達の自信につながり、学習に向かう意欲が高まるという検証もあります。

来年度は、研究の2年目を迎えます。今年度の研究実践や研究結果を生かしつつ、引き続き子供達の学力向上、身に付けるべき資質・能力の育成にチャレンジしていきます。今年度同様、御家庭の御支援と御協力をよろしくお願いいたします。

たまんなっ子じまん — 長崎新聞「レッツ575」「ジュニア俳壇」、第19回五島列島小中高生短歌・俳句コンクール —

長崎新聞『レッツ575』(2月25日掲載)、『ジュニア俳壇』(2月26日掲載)。本校の小中学生4名の作品が掲載されました。今年度に学校だよりで紹介した作品は、延べ42作品となりました。玉之浦小中学生が大活躍している様子をお伝えすることができ、大変うれしい記事でした。

【レッツ575】

『赤ちゃんが 泣いているよ 赤面して』 平田 丞

【ジュニア俳壇 佳作】

『張り詰める 空気は教室 受験前』 林 真心 『雪空に 心が躍る 子供達』 埴 優斗

『親も子も とりこになるよ 海苔うまい』 小林 紬

第19回五島列島小中高生短歌・俳句コンクールに応募した本校生徒の中から、出口清悟さんが「長崎新聞社賞」を受賞しました。何事も一生懸命取り組む清悟さんの気持ちがこもった作品です。

【長崎新聞社賞】

『テスト明け 心も空も快晴だ 結果はどうあれ 僕はやりきった』 出口 清悟